

東京のグランドデザイン検討委員会（第4回）資料

「ビジネス創発都市 Tokyo」～FinTechの観点から～



2016年2月18日

株式会社インキュリオン・グループ
一般社団法人 FinTech協会

代表取締役
代表理事
丸山 弘毅

FinTech協会

FinTechのエコシステム活性化を目的に、FinTechベンチャー38社 大企業51社・個人21名が加盟 (2016年2月8日時点)

FinTechベンチャー企業

Billing System, boku Pay by Mobile, ceres, coincheck, CECO, credorax, CROWD CAST, Crowdfunder, infcurion, jintec, Kanmu, kraken, Linkage Inc., Liquid, Make Leaps, MerryBiz, MFS, Moneytree, お金のデザイン, One Tap BUY, orb, Paid, patdy, PaYoneer, Transaction Media Networks, TransferWise, valuedesign, 株式会社

(2016/1/8時点 アルファベット順)

法人会員一覧 1/2

ADKK, 渡辺昭雄法律事務所・税務法人 井村幸美 Atsumi & Sakai, BrafnPad, Chappuis Halder & Co., CLOUD PAYMENT, SAISON CARD, UC, DNP 大日本印刷, docomo, EY 新日本有限責任監査法人, GMO PAYMENT GATEWAY, HAKUHODO, 池田泉州銀行, INTELIGENT INVA INC., iSiD, JACCS, ジャパンネット銀行, KDDI, Marubeni, MUFG 三菱UFJフィナンシャルグループ, 三井住友銀行, MIZUHO 三菱UFJフィナンシャルグループ

Confidential (2016/1/8時点 アルファベット順) PAGE. 5

法人会員一覧 2/2

エムティーアイ, NSK, NTT DATA 株式会社 NTTデータ 経営研究所, NTT 東日本, Orico, PAYGENT, RECRUIT リクルートライフスタイル, SBI Holdings, SBI Investment, SBI Remit, セブン銀行, 新生銀行, TerraSky, TIS IT Holdings Group, TOPPAN, From Information, 弥生, TOPPAN FORMS, UNISYS, QUICK, 弥生

Confidential (2016/1/8時点 アルファベット順) PAGE. 6

今起こっていること

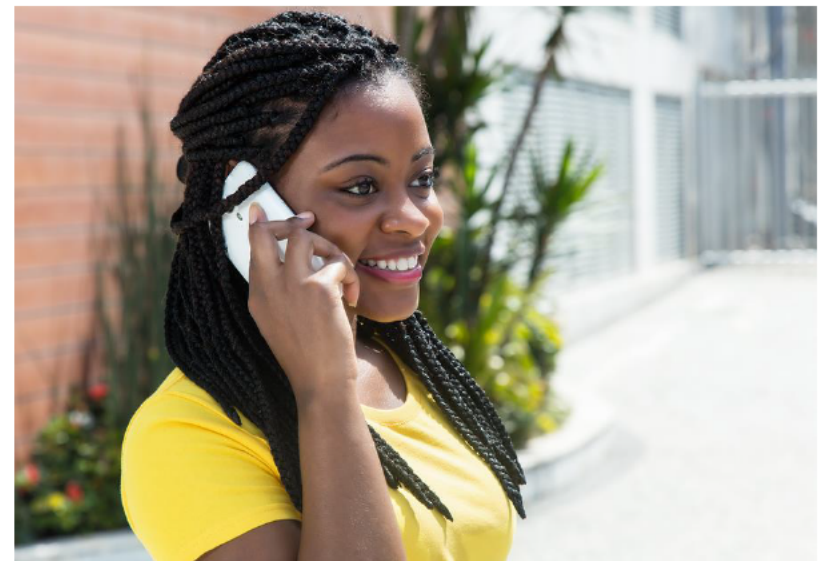
金融の世界では、金融という概念の再デザイン（設計）が進行
これは金融業界での産業革命とも言われている

Finance
(伝統的な金融ビジネス)



×

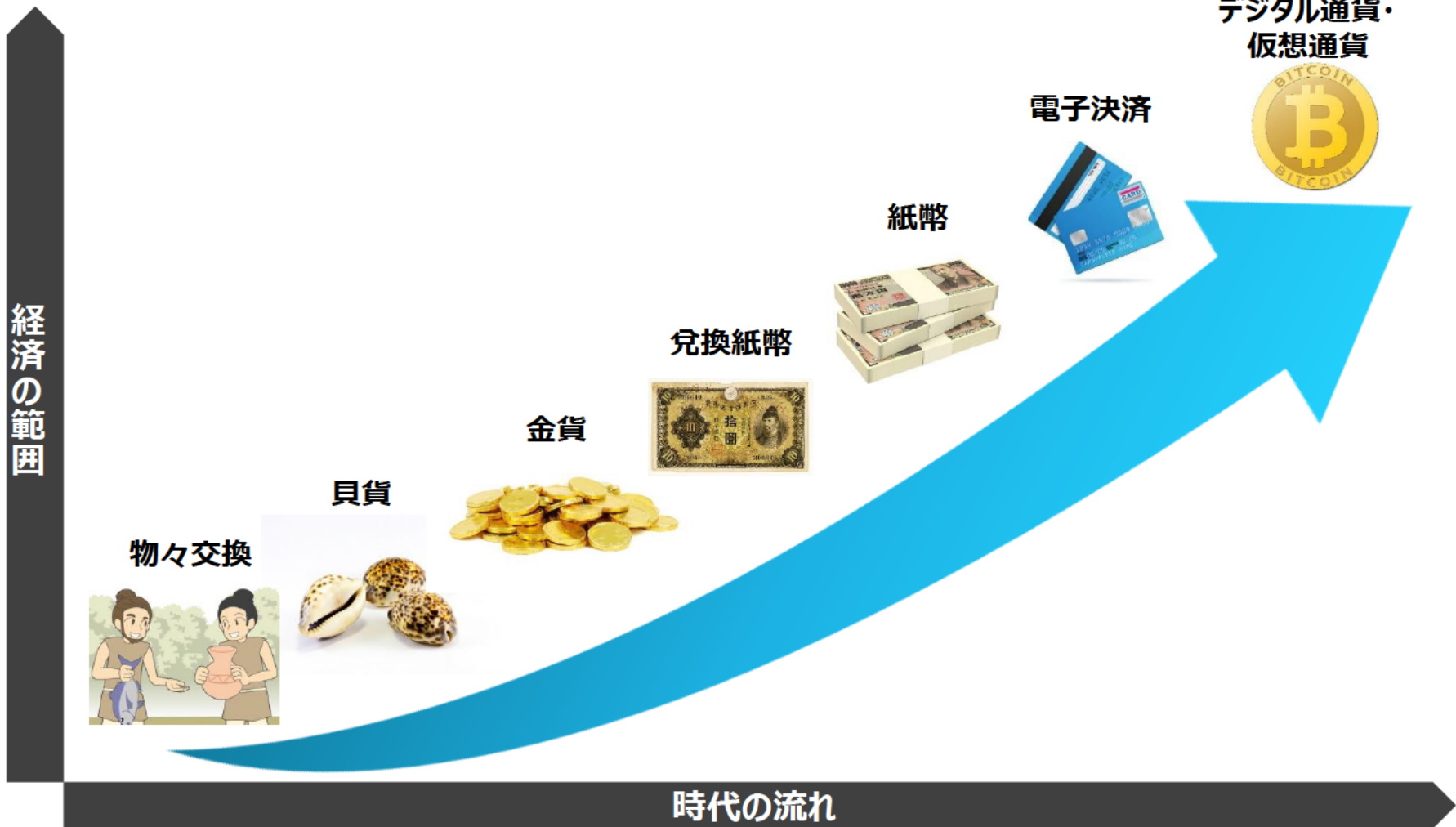
Technology
(AI・スマートフォン等の技術革新)



静的（安定） ⇒ 動的（変革の継続）へ

背景① (貨幣經濟の進化)

貨幣は、より軽く・早く進化。次のステージへ進む事は必然



背景② (技術革新)

AIやブロックチェーンにより、システムや働き方は根本的に変わる

AI (人工知能)



“2025年～2035年には、日本の労働人口の約49%が、技術的には人工知能(AI)で代替可能になる”

英オックスフォード大学のマイケル A. オズボーン准教授、同カール・ベネディクト・フレイ博士、株式会社野村総合研究所による共同発表
2015/12/2

ブロックチェーン



“ブロックチェーンにより、契約書や資産譲渡等の分野が変革していく可能性があります。既に米国では、証券取引所や社債市場でブロックチェーンが使われ始めています。”

MITメディアラボ伊藤穰一所長
ITproのインタビュー「ブロックチェーンの未来に僕はわくわくしている」
2016/1/4

背景③（価値観の変化）

モノの所有・購入から、価値の移転・交換にという発想にシフト

シェアリング

Airbnb（民泊仲介サービス）に代表されるように、シェアリングの価値観が急速に普及



IoT（Internet of Things）

あらゆるモノの利用状況をリアルタイムに把握。購買から、「使った人が」「使った分だけ」「使い方」によって支払い

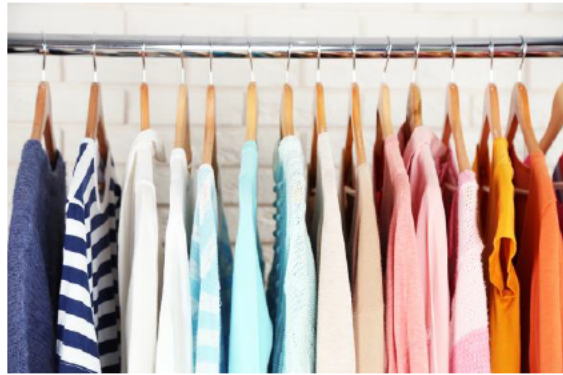


2040年の生活イメージ

① 車で出発。
移動した分だけ支払い



② サイズだけ選んだら2時間後に
自宅へ。受け取ったら自動決済



③ 生活状況から自動選定。購入
せず、後から利用分だけ支払い



⑥ 子供がお片付けしてくれた。
メッセージとお小遣いを



⑤ 資産はロボアドバイザーを
活用して自分に最適な運用

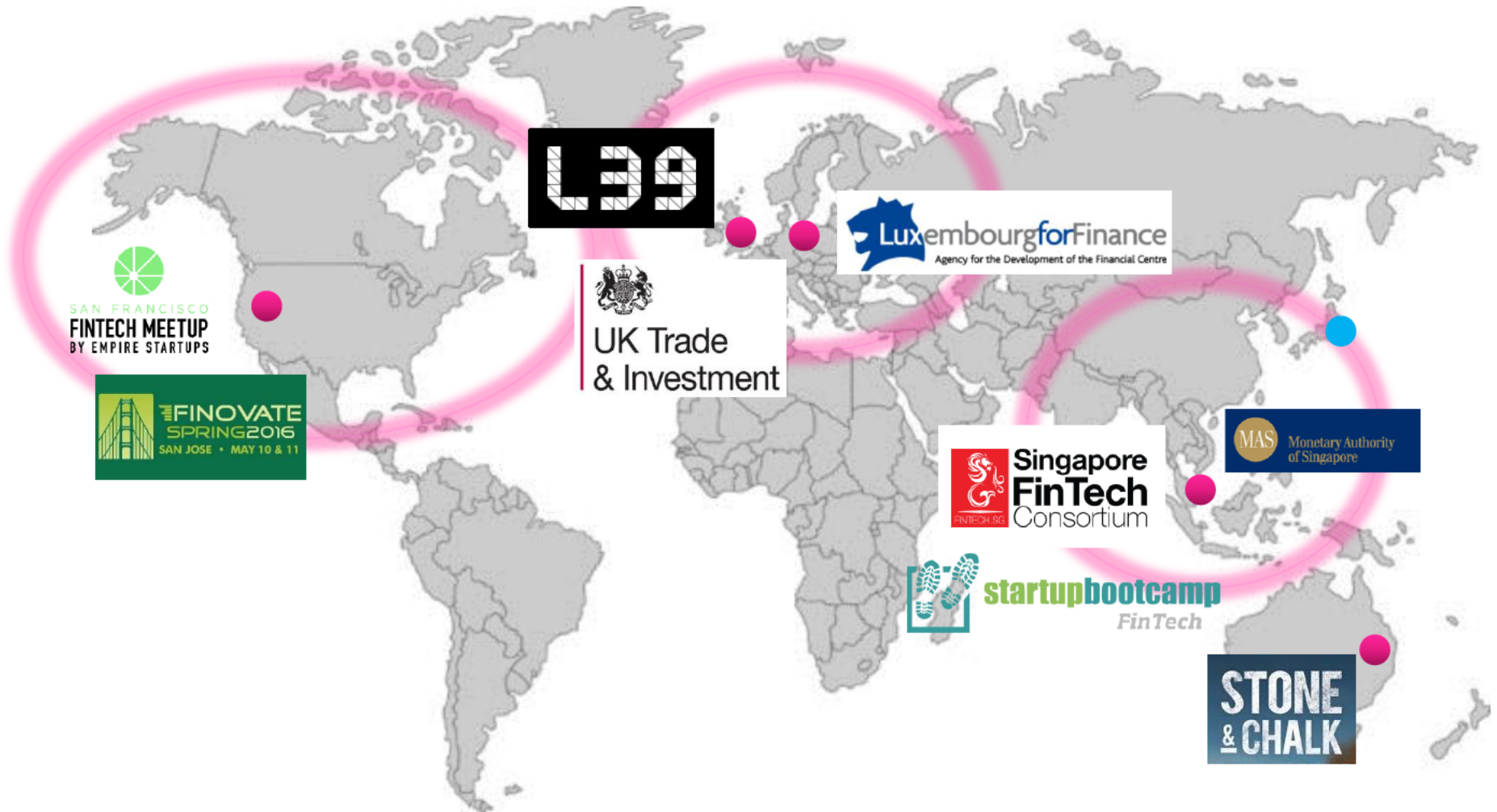


④ 欲しいものを選んだら、網膜
や指紋で認証だけ実施



世界の各都市の動き

世界各都市が、「次世代の金融ハブ」に向けて積極的に活動



現在の日本の動きは？

官民ともやっと動き出したという状況

自民党

- フィンテック推進議員連盟発足

金融庁

- フィンテック専門部署設置
- 金融審議会・決済高度化WGにて、規制緩和に向け具体的に検討

経済産業省

- FinTech研究会を発足

銀行

- オープンイノベーションを推進（FinTechベンチャーとのコラボイベント）

不動産・広告

- 電通×三菱地所が、FinTechハブを設置

将来の金融ビジネス都市とは？

企業や人が集まる必要性は減少

現在イメージする「金融都市」とは、まったく異なる姿

データは、PtoP（個人間）・分散型で管理



中央集中管理の巨大システムは不要に

グローバル化・リモートワークの更なる進展



一つの拠点に集中する必要性が減少

事務・計算/分析などはAI・ロボットが実施



人は、より生産的・よりクリエイティブな活動に集中

イニシアティブを握る都市とは？

多くの機能・データを集中させるかが肝の時代は終焉へ
“新たな価値・サービスが生まれる場” が、イニシアティブを握る



東京が目指すべき姿

東京に集まった人々から新たな価値・サービスが産みだされ、
東京を經由して世界各都市に展開

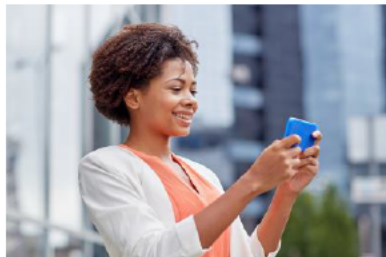
変革者たち



世界中のマネー



感度の高い人々



金融ビジネス創発都市
Tokyo



ヒト
アイデア
技術
資金

ビジネス
の発信

日本の地方都市



アジアの各都市



その他世界中の都市



金融ビジネスの創発都市になるには

「東京に行こう」思えるマーケットに
～「グローバル展開には、まずは東京から」、「東京の人々と一緒に考えよう」など

その為に必要なことは？

① 世界各都市との
規制の標準化



“東京でO.K.なら、世界のどの都市でも規制は問題ない”

② 魅力的な
テストマーケット化



“東京で成功すれば、世界展開しても間違いない”

③ 人材の流入



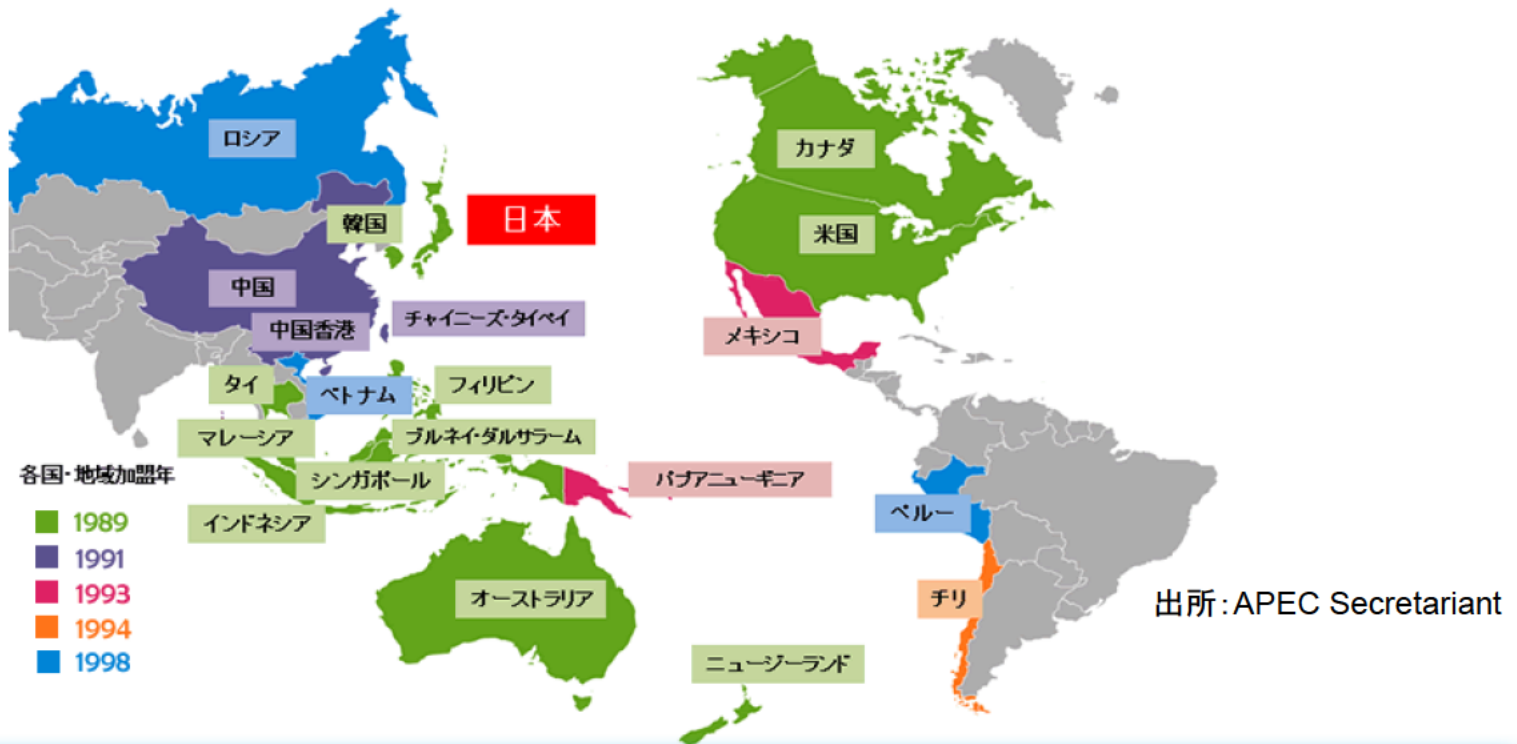
“東京は、生活もビジネスも魅力的だから、東京で働こう”

① 世界各都市との規制の標準化

例えば、個人情報保護ルールは、日本を含むAPEC内で標準化されており、日本で認証されればAPEC域内で認証されたことになる

経済産業省 平成28年1月25日公表

APECの参加21カ国



(一例) 特区や姉妹友好都市同士で基準を合わせるなども検討できないか

②魅力的なテストマーケット化

豊かさ・教育・ICT環境面では絶好のマーケット
しかし、金融・IT活用度の低さが足かせ



米国



EU



日本

	米国	EU	日本
生活水準			
一人あたり可処分所得	41,355 USD/年	27,029 USD/年 (英)	26,111 USD/年
一人あたり金融資産	145,769 USD	60,778 USD	86,764 USD
就業率	67%	71%	72%
教育水準			
大学進学率	43%	29%	47%
ICT利用状況			
インターネット普及率	86.9%	77.9%	90.6%
スマホ普及率	69.6%	英80.0% 仏71.6%	53.5%
金融サービス利用状況			
カード発行枚数/人	3.8枚/人	3.1枚/人 (英)	2.1枚/人
電子決済比率	約40%	約50% (英)	約15%
モバイルバンキング利用率	約35%	約28% (英)、約20% (仏)	約17%

出所: 日本銀行、総務省、OECD、ITU、KPMG等による調査を元に作成

②魅力的なテストマーケット化

SuicaやETCのように、インフラ先行による最先端化も必要

Suica・PASMO

合計発行枚数 7,798万枚



参考：関東の鉄道輸送人員4,183万人/日

ETC

首都高のETC利用率 93.3%



出所：国土交通省、関東運輸局等による調査

たとえば・・・

完全なキャッシュレス化 (現金が1円もない)

AI・ロボット利用率100% (何かしらAI・ロボットを活用したサービスを利用)

③ 人材の流入

都市の住みやすさランキング (2015年)

英ライフスタイル系雑誌
「モノクル(Monocle)」

東京1位

- 犯罪統計や医療制度、公的教育、ビジネス環境などを重要視して各都市を評価
- モノクル「ほかの都市は真似できないような環境を提供しており、文化、治安、グルメ、丁寧さ、全てを持ち合わせています。ロンドンやニューヨークにも見習ってほしい」

英エコノミスト誌の調査部門
「Economist Intelligence Unit」

東京15位

- 軽犯罪の発生率や医療の質、食べ物など30以上の基準で世界中の140の都市をランク付け
- 1位はオーストラリアのメルボルン

Ease of Doing Business Rank 2016

1位	Singapore
2位	New Zealand
3位	Denmark
4位	Korea, Rep.
5位	Hong Kong SAR, China
6位	United Kingdom
7位	United States
8位	Sweden
9位	Norway
10位	Finland
11位	Taiwan, China
12位	Macedonia, FYR

33位	Spain
34位	Japan
35位	Armenia
36位	Czech Republic
37位	Romania

出所: Economy Rankings 2016 (WORLD BANK GROUP)

「住みやすさ」の評価は高いため、ビジネス環境さえ整えば、起業家や働く人の流入が期待できる

③ 人材の流入

Ease of Doing Business Rank 2016 日本の内訳



Ease of Doing Business in

Japan

Rankings

Distance to Frontier

Distance to Frontier - Tokyo

Distance to Frontier - Osaka

Topics	DB 2016 Rank	DB 2015 Rank	Change in Rank
Starting a Business	81	77	↑ -4
Dealing with Construction Permits	68	66	↑ -2
Getting Electricity	14	14	No change
Registering Property	48	47	↑ -1
Getting Credit	79	71	↑ -8
Protecting Minority Investors	36	33	↑ -3
Paying Taxes	121	120	↑ -1
Trading Across Borders	52	51	↑ -1
Enforcing Contracts	51	51	No change
Resolving Insolvency	2	2	No change

出所: Economy Rankings 2016 (WORLD BANK GROUP)

イノベーターの誘致に向け、起業・融資・税制面での優遇も検討必要

ビジネス創発都市 Tokyo

変革者たち



全員が参加し、
新たなビジネスを創発



働く人々



生活する人々